

そ ちょう  
曾 我 町

蘇我氏一族が住んだ町

真菅小学校西の国道二四号バイパスを中心とする、曾我町中央部地下一帯に古墳時代の「曾我遺跡」が眠っています。忌部町の項でも紹介したとおり曾我遺跡は、五世紀後半から六世紀前半にかけての大規模な、大和朝廷直属の玉類を作る基地だったことが昭和五八年の発掘調査で分かっています。

同遺跡では、管玉（くだたま）・勾玉（まがたま）・棗玉（なつめだま）など多種類多数の玉のほか、玉を研ぐ砥石（といし）など一万点を超える遺物が見つかっています。

玉を作る原石でも滑石・水晶・グリーンターフ・ヒスイ・コハクなど、当地で採れない石を含む十数種が出ており、全国各地から原石を取り寄せ玉作りに励んだ当時の大変にぎやかな様子が推測されます。

古代豪族・蘇我氏の一族が住んだと伝わる町には、宗我坐宗我都比古（そがにますそがつひこ）神社が鎮座しています。蘇我氏の先祖・石川を祭るという古い社です。

この土地を詠んだ「真菅よし宗我の河原に鳴く千鳥——」が万葉集に残ることや、さらに曾我殿（そがどん）・曾我堂・曾我森などの小字名が現在も町内に残っていることなどから、ここの「町名の出所」がうかがえます。